

陸上競技選手に対する貧血スクリーニング検査の実施報告ー第70回国民体育大会陸上競技青森県選手選考会においてー

平成27年7月10日から12日まで、むつ運動公園陸上競技場を会場として第70回国民体育大会陸上競技青森県選手選考会が行われました。大会期間中は3日間とも好天に恵まれ、国体への出場権をかけ白熱したレースが繰り広げられました。

大会の開催に合わせて青森県スポーツドクターの会では、出場選手の貧血スクリーニング検査を初の試みとして行いました。期間中は青森陸上競技協会にご協力いただき、会場スタンドの一室に検査ルームを設けていただきました。検査ではまず、問診票に貧血の治療歴や疲労骨折の既往歴などを記入してもらい、経皮的ヘモグロビン濃度測定器（ASTRIM FIT、シスメックス社）を用いてヘモグロビン濃度推定値を計測しました。日本陸上競技連盟がパフォーマンス維持・向上に必要なヘモグロビン濃度の目安を男子14mg/dl、女子12mg/dlとしています。測定結果をその場で全選手にフィードバックし、この基準値未満の選手には精査の必要性を説明しました。

初日の開設当初は検査に来る選手の出足も鈍く不安になりましたが、“痛くない検査”であることをアナウンスすると（多くの選手が針を刺す検査と思っていたようです）徐々に選手が集まりだし、最終的には大会参加選手884名中、525名（59%）が検査を受けられました。その結果、基準値に達しなかった男子61名、女子34名には、医療機関宛ての文書を渡し早期の受診を勧めました。当該選手が受診した医療機関の先生には、血液検査による貧血の診断（今回の検査による計測値はあくまでも推定値です）と治療をお願いいたします。普段の練習で体調不良を感じている選手でも、貧血を疑って自分から医療機関を受診するケースはごく少数と思われます。このような試みが、選手自身や指導者が日頃から選手の健康管理に目を向ける一つのきっかけになってくれればと思います。

本会からは岡村良久会長、細川美佳先生、吉川孔明先生、飯尾浩平先生、藤田有紀先生と自分が参加し検査業務を担当し、また助っ人として大学病院整形外科の油川広太郎先生、むつ総合病院初期研修医の對馬誉大先生、佐藤桜先生、福嶋学先生、医学部医学科6年生の熊原遼太郎君にお手伝いいただきました。検査ルームの隣には選手に好評のトレーナールームが開設されており、いつも満員御礼でトレーナーの方々が汗だくになりながら選手のケアを行っていました。皆様、本当にお疲れ様でした。

弘前大学大学院医学研究科整形外科学講座 津田英一

当日の様子

